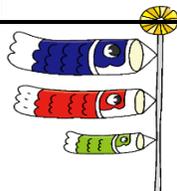




かけはし

日上市立大久保小学校
TEL36-0555
FAX36-6311
発行責任者 藤谷 真一
令和6年5月1日発行



人間は「嘘」をつく生き物

校長 藤谷 真一

4月中は毎朝、6年生が1年生の教室に行って、朝の準備を手伝ったり、校歌を教えたりしていました。中休みには、6年生と1年生が「だるまさんが転んだ」や「鬼ごっこ」をして遊んでいます。1年生がとても楽しそうに笑顔で過ごす姿が増えています。「学校が楽しい」という感情をどの子にも抱かせ、学校生活を送らせたいと強く思います。最上級生になった6年生も実に頼もしく見えます。きっと人とかかわることが得意ではない子供たちもいるでしょう。「役割が人を育てる」という言葉どおり、役割を与え、経験を重ねることで喜びや楽しさを感じ、次第にその術を身に付けることも多いです。

子供時代の「遊び」「異学年とのかかわり」は、大人になってお金を払っても経験できるものではありません。今、この時期にしか感じられない、身に付けられない大切なものを得ることができると考えています。

さて、みなさんは子供の話を100%信じますか。習性として人は「嘘」をつく生き物です。子供は発達段階によって見え見えの嘘をついたり、嘘で逃げようとしたりします。時折、保護者から「我が子が嘘をつくので心配です。」という声を耳にします。子供の嘘は自分を守るための本能的なものです。叱られたくない、不利益を避けたい、自分自身をよく見せたいためのものです。

一因としては、周囲にいる大人がつくる環境に影響を受けていることが多くあります。大人と子供との関係が希薄、大人から強く叱られる傾向にあると嘘が増えやすくなります。トラブル等の後、大人の知りたいことばかり「訊く」のではなく、子供の話を「聴く」こと。そして、嘘で逃げざるを得ない責め方をせず、「一緒に問題を解決してあげること」のほうが大切です。大人である親や教師は、自分の言動が子供の嘘の原因になっていないかを振り返り、子供の話を広い視野で受け止め、どの子にも必ずある「いい芽を育てる」接し方を心掛けたいものです。

5月はリズムを崩しがちです。朝、気が重くなる子も出てくる時期です。どうぞ子供の話に傾聴し、そっと背中を押してください。子育てのこと、学校のこと何か気になることがございましたら、いつでも学校にお越しください。